

先週の説教要旨

「私が出会った小さなキリスト」

戸根真理恵牧師

I コリント 12 : 14~26、マルコ 9 : 33~37

◎人は皆偉くなりたい。大きいということ、小さいということ

イエスが弟子たちに尋ねました。「途中で何を議論していたのか」。誰もすぐに答えられませんでしたが。イエスがこれから死に向かっていよいよ歩み出すという時に、弟子たちは誰が一番偉いかと話し合っていた。弟子たちは皆、偉くなりたいかったです。人は皆、偉くなりたいという思いを持っています。聖書に出てくる「偉い」という言葉の原語は「大きい」という意味を持つ言葉です。偉くなりたいということは、大きい存在になりたいということです。まわりの人から認められたい、すごいと思われたい、尊重されたい、悪口を言われたくない。人間は皆そういう思いを持っていると思います。反対に、「小さい」という言葉は「偉くない」という意味も含みます。存在として小さいということ。価値がない、弱い、大切にされていないという意味です。ここでのイエス・キリストの教えは逆転の教えです。「いちばん先になりたいものは、全ての人の後になり、全ての人に仕える者になりなさい」(9:35) 偉くなりたいなら、仕えるものになりなさい。大きくなりたいなら、小さくなりなさいと言うのです。

◎子どもを抱き上げるキリスト「小さい」存在である子ども

そして「小さい存在」の例として、イエスは子どもを連れてきました。「小さい」というのは存在が小さい、大したことない、という意味です。子供の手を取って、真ん中に立たせ、抱き上げて言われた。「わたしの名のためにこのような子供

の一人を受け入れる者は、私を受け入れるのである」。(9:36-37) 手を取る、立たせる、抱き上げる、全てこれらの動きの主語はイエスです。子どもは何もしていません。されるがまま、身を任せただけ。これが、まさにイエスを受け入れたということなのです。そしてイエスを遣わされた神を受け入れたということなのです。自分では何もしない、拒否もしない。神を受け入れるとは、自分自身の主導権をイエスに渡すということではないでしょうか。自分の力でなんとかしよう、どうかしようともがくのではなく、イエスに抱き上げられた子どものように、されるがまま、全てを委ねるので。当時のユダヤの社会では子どもは労働力にならない、役に立たない存在で、価値がないものとされていました。そんな「価値のない」存在、「小さな人」である子どもを、イエスは抱き上げました。自分では何もできないとても弱い存在でありながら、抵抗する力さえない、だからこそイエスに与えられたものを受け入れることしかできない、いや、全て受け入れることができる、実はとても強い存在でもあるのです。弱く、小さな存在である子どもこそ、実は一番大きいのです。これこそキリストの逆転の教えです。「抱き上げる」ということは、イエスの視線の高さまで連れてくるということです。この子はイエスが見ているのと同じ景色を見たわけです。これはとても象徴的な出来事です。人間は神の視点に立つことはできません。しかし、ただイエスさまに抱き上げられることによってのみ、その時だけ、イエス・キリストと同じ世界を見ることができるのです。キリスト教では神様と離れていることを罪と呼び、神様とくっついていないことを救いと呼びます。イエス・キリストを通してしか、救いはありえないということです。^

週報

日本キリスト教団 都島教会

伝道所設立 1957 年 12 月 1 日 教会設立 2001 年 12 月 2 日

〒534-0012 大阪市都島区御幸町 2-6-17

TEL06-6922-1120 FAX06-6922-1120

E メールアドレス : 3533osgm@jcom.zaq.ne.jp

ホームページアドレス : <https://miyakojima-church1.com>

郵便振替 00920-4-1442 日本基督教団都島伝道所

主任牧師 井上隆晶

2026年8月2日 No.1884



《ペトロの足を洗うイエス様》

都島教会の 2026 年度の宣教方針

標語 《主キリストの忠実な僕になろう》

聖句 「目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。」(マタイ 24 : 42)

2026 年度の目標

- 1 毎週礼拝を守り、礼拝出席平均 28 名を目指します。
- 2 時をよく用いて、出会った人を礼拝にお誘いします。
- 3 み言葉を聞くだけでなく、行います。
- 4 会堂建築のための具体的な準備を進めます。